

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業の概要

事業名	一般国道115号 霊山道路	事業区分	一般国道	事業主体	福島県
起終点	自：福島県伊達市霊山町石田 至：福島県伊達市霊山町下小国	延長	10.5km		
<p>事業概要</p> <p>国道115号は、相馬市から福島市を経て猪苗代町へ至る延長約118kmの幹線道路であり、福島県の相双地域と県北地域を結ぶ連携軸として、特に観光や緊急医療、重要港湾相馬港と連携した物流の面で重要な役割を担う路線である。</p> <p>このうち相馬市山上～東玉野間10.7kmは国事業「阿武隈東道路」として事業化されているが、当区間についても急勾配、急カーブが連続していることから事故が多発しており優先的に整備を図るものである。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <p>本事業により、相馬・福島間の定時性、速達性が確保されるとともに、緊急輸送路（第1次確保路線）としての信頼性向上が図られる。あわせて効率的かつ安定した物流の確保と地域商工業の活性化、相馬港の利用促進、さらには松川浦や霊山県立自然公園をはじめとする観光資源の有効活用を支援することができる。</p> <p>全体事業費：243億円 計画交通量：9,900台/日</p> <p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

地元市町村からなる国道115号(福島霊山相馬間)整備促進期成同盟会や、伊達地方町村会議長会からは毎年整備着手に対する強い要望がある。また、相馬港の物流を担う運送事業者が、関係市町及び道路管理者と合同で現地調査を行い、危険箇所を指摘するとともに国道115号(相馬～福島)の整備を要望する(H16.2.13)など、物流効率化の観点からも強い要望がある。

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	3.0	総費用：204億円 （事業費：192億円 維持管理費：12億円）	総便益：605億円 （走行時間短縮便益：535億円 走行費用減少便益：47億円 交通事故減少便益：23億円）	基準年：平成18年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= (交通量 -10%)	B/C= (交通量 10%)		
		事業費変動	B/C= (事業費 -10%)	B/C= (事業費 10%)		
		事業期間変動	B/C= (事業期間 -20%)	B/C= (事業期間 20%)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-	【渋滞損失時間の改善】 【1kmあたり(台kmあたり)渋滞損失時間】 【渋滞度曲線】 【その他の特徴】 <small>データは県内平均・全国平均と比較すること</small>		
		事故対策	-	【死傷事故率】 123件/億台和 (死傷事故率比(県内平均比)73件/億台和) (事故率曲線における位置：) 【その他の特徴】 <small>データは県内平均・全国平均と比較すること</small>		
	社会全体への影響	歩行空間	-			
		住民生活		緊急医療活動に効果を発現する事業である。第三次医療施設への搬送に資する道路である。(相馬市から福島市へ)		
		地域経済		重要港湾相馬港と中通り・会津・置賜地方の工業団地アクセスを支援するための道路である。霊山や松川浦など観光地のアクセス向上により広域観光ルートの形成を支援する。		
災害			相双地域と中通りを結ぶ唯一の緊急輸送路第1次確保路線として信頼性向上が図られる。			
	環境		史跡名勝霊山や霊山県立自然公園を回避している。			
	地域社会	-				
事業実施環境			常磐自動車道相馬延伸がH23と発表され、阿武隈東道路と合わせた早期効果発現が期待される。			

採択の理由

費用便益比が3.0と、便益が費用を上回っていることから、事業採択時の前提条件が確保できる。また、相馬・福島間の定時性・速達性の確保により、住民生活や地域経済、防災への効果は高いと判断できる。以上のことから、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。